

1. 件名「国立研究開発法人日本原子力研究開発機構原子力科学研究所の原子炉施設に係る現地確認について」

2. 日時：令和2年10月26日（月）11：45～17：15

3. 場所：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構原子力科学研究所

4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部

新基準適合性審査チーム

大島安全規制管理官、加藤安全審査官、梶見安全審査官、島村安全審査官、  
荒川安全審査官

火災対策室

守谷室長、田邊係長

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

原子力科学研究所 副所長 他約10名

5. 要旨

(1) 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という。）原子力科学研究所の原子炉施設（JRR-3、STACY、放射性廃棄物の廃棄施設（以下「処理場」という。）及びNSRR）の新規制基準適合性について、要求事項に対する設備及び配置、対策等を確認する観点から、以下の現地確認を行った。

【JRR-3】

- 制御棒駆動機構の構造（模型）
- 建屋貫通部（ケーブル系統分離）及びケーブルトレイ（離隔距離確認）
- 制御室

【STACY】

- 炉室(S)（炉心タンク設置予定場所）（管理区域）
- 炉下室(S)（給排水系設置予定場所）（管理区域）
- 給排水系モックアップ試験装置（管理区域）
- 制御室

【処理場】

- 保管廃棄施設・L（一部使用承認対象施設）保管廃棄の状況及びドラム缶健全性確認の進捗状況
- 保管廃棄施設・II津波防護壁設置予定地点

【NSRR】

- 炉室等（原子炉プール、制御棒駆動設備）
- 制御室

(2) 原子力規制庁から、主に以下の内容を求め、原子力機構から了解の旨の回答あった。

- JRR-3の建屋貫通部については、ケーブルの数が多く煩雑であることは理解した。保安規定や下部規定において、火災対策をしっかりと策定すること。
- JRR-3の建屋貫通部のケーブルの分離設備の設置については、空間的に逼迫している状況となっていることから、適切な工事方法を検討すること。
- STACYについては、炉心タンクのサーボ型水位計が地震等で故障した場合の対応について確認した。上記対応については、ヒアリング等においてより具体的に説明すること。
- 処理場の東側の標高の確認については、今回の視察で確認ができたと考える。今後、図面などで確認できない部分などあったら、写真などにより必要な情報を提供すること。

6. その他（原子力機構からの配付資料）

- ・ 原子力科学研究所の概要